

各分科会での JCO 事故をめぐる論点

平成 11 年 11 月 15 日

項 目	論 点	指 摘 事 項 の 例 (注)
安全確保	安全確保の基本的考え方	事故は起こるとの前提に立った対策 深層防護等により「事故を起こさない」とする考えと、防災対策での「事故を想定する」考え 過去の教訓をどう生かすか 安全とコスト 人を信頼して安全を確保してきた日本型社会から、モラルの低く、リスクの高い社会に移行する中での安全管理の考え方の見直し
	原子力安全確保体制のあり方	原子力安全委員会の能力、陣容 緊急時対応システム ルールが守られないことを前提にした安全確保 安全性に関する中立的(第 8 者)監視機関(事故調査及び日常の現場監視) 社会科学的な面からの事故調査
	安全規制のあり方	安全に関する国と設置者の責任 規制のバックフィット モラル低下を前提にした安全確保体制、検査 事業者の自立を高める施策と法規制 国情にあった規制(慣習的、介入的、法律的)

	教育のあり方	国民の原子力・放射線についての教育のあり方
	情報提供のあり方	多様な受け手が必要とする情報の正確かつ迅速な提供のあり方 ・メディアの誤解による 2 次混乱の防止 ・住民の健康不安解消のための適切な情報提供 平常時における住民への防災対策の説明
危機管理		危機管理体制のあり方と国・地方自治体・事業者の役割の明確化 多様な受け手が必要とする情報の正確かつ迅速な提供のあり方 危機管理における原子力関連機関の協力体制 「事故は起こるもの」とした平素からの対応
経営・組織・人	企業経営と安全確保	経営者の自己責任による安全確保 安全についての外部監査の導入 経済性追求と安全確保の両立 モラル低下、組織に内在する問題の検知 現場従事者の処遇
	原子力関係者の安全意識・モラル	安全文化の構築と維持、他者との共有・相互啓発の仕組み 同業者のネットワーク化、異分野専門家間の議論 教育訓練のあり方 技術者倫理の構築 倫理教育 中間管理職と現場の関係 事故による原子力関係者のモラルダウンの懸念 技術革新への対応の遅れ→競争力低下→合理化→モラル低下のサイクル
エネルギーセキュリティ		セキュリティの観点からの、フロントエンド産業、核燃料サイクルのあり方

原子力産業		原子力のような国策的事業の運営形態 安全文化の構築と維持、他社との共有・相互啓発の仕組み 技術の継承、保持の方策 リストラ、合理化による専門家の減少
研究開発活動	技術の継承等	技術の継承・保持の方策 技術力の空洞化現象 技術開発を軽んずる風潮 研究活動に伴う安全確保
	研究者・技術者のモラル・倫理	モラル向上、啓蒙のための教育 技術力向上のための教育・研修 日本特有の社会・組織体制の問題（終身雇用のため、「習うより慣れろ」の仕事やり方） 技術者倫理の構築 倫理教育 先端的研究開発分野からの学生離れの加速の懸念
放射線の健康影響	放射線の健康影響	放射線による健康影響 被曝医療（国内外の協力体制、事故後の精神的不安へのケアを含む）
国際関係	国際的情報発信のあり方	諸外国の反応にかかる情報収集 情報発信による国際的信頼の確保

（注）論点間で指摘が重複する場合がある